遺愛中学1年生『群読』に初挑戦!!

10月25日（水）14:30より、遺愛女子中学1年生が国語の時間に講堂で『群読』に初挑戦しました。『群読』とは、「複数の人数でその文章の世界を表現する芸術活動」で、文章の内容にあわせて演出を練り、チームで作品の世界観を表現する活動だそうです。

中1Ａクラスの32名が７チームに分かれ、遺愛の図書室にある詩集をたくさん読み、班ごとにお気に入りの作品を選び、その情景を話し合いながら練習をしました。

１班は江國香織の『えいがかん』、2班は星野富弘の『たいさんぼく』、3班は江國香織の『退屈』、4班は工藤直子の『日記』、5班は谷川俊太郎の『朝のドナルドダック』、6班は中原中也の『骨』、7班は島崎藤村の『銀河』を題材に挑戦しました。

私は初めて『群読』する場面を見ました。他に比較するものが私の中には全くなく、新鮮な気持ちで、果敢に挑戦する中1の皆さんの姿にたくさんの可能性を感じました。

神奈川県横浜市にある聖光学院中学高校では中学１・２年の国語に『群読』を取り入れています。聖光学院中高の2023年進路状況は、東京大学78名、京都大学6名、一橋大学4名、東北大学6名、北海道大学8名、早稲田大学175名、慶応義塾大学127名、東京理科大学62名などで全国有数の進学校で、20年以上前から『群読』を行っています。

聖光学院ではグループで演出を考えて発表する過程で、それぞれの読みをぶつけ合い、深め合って行くそうです。さらには、その読みを表現するところまで高めることを目指し、自己の読みと他者の読みを比べ、時には自分の読みを崩すことが必要となるという意味で、極めて有意義な時間となるそうです。また、意見の対立など、グループにおける議論で立ち現れる様々な問題に出会うことを通して、各々のコミュニケーション能力を涵養し、リーダーシップを養っているとのことです。

すぐに聖光学院のレベルに到達するのは難しくても、毎年積み重ねて行くうちに、遺愛オリジナル『群読』ができていくのを楽しみにしています。

2023年11月1日